

意見交換のテーマ	発言者	委員から示された意見
子ども・若者が笑顔で過ごせるために必要な取組みについて	汐見委員 (パネリスト)	テーマに対するパネリストからの説明
		◆子どもたち、あるいは若者たちが、自分の一生をどのように生きていくのかというライフコース、あるいはライフサイクルの描き方が、かなり大きく変わってきている。これからのDX社会の中で、どのようなことを必要としているかについては、若者たちの方がはるかに敏感で、それを受け止めた上で、企業活動に転換していくような社会をつくっていかないと、若者たちが本当にさまよってしまう。その多様化が今、現実的なテーマになっており、学校がどう対応できるかが1つの課題だと思う。
		◆不登校の子ども数が増えており、今の学校が子どもたちの期待に必ずしも沿う場所ではなくなっていることを表している。今の子どもたちが求めているものと学校がミスマッチを起こしていることを認め、そこからもう1回出発することが大切だと思う。
		◆一人ひとりの子どもが自分のしたいこと、これからやっていきたいことを見つけるといのが学校のテーマであり、状況に応じてカリキュラムの魅力を変えていく必要がある。自分で必要なものをどんどん学んでいくというスタイルを、教師たちもみんなで話し合いながら実践してほしい。
		◆これから自分たちの学校でカリキュラムをどう変えて子どもたちの学びの願いというものをどう受け止めていくのか、また、教える教育から学び支援の教育に変えるために何をやっていったらいいのか、といったことを学校の先生同士が話し合いながら実践していける雰囲気や機運をつくっていく必要がある。
	◆不登校の子どもたちへの支援に世田谷は非常に力を入れて取り組んでいる。カリキュラムを自分で作るフリースクールというものを学校の中にもっといろいろな形でつくっていく必要がある。興味あるテーマで結びついたグループが、お互いに教え合ったりしながら学んでいく自由さなども考えていかなければならない。	
	鈴木委員 (パネリスト)	◆多様な一人一人の個性を尊重すること、守ることを目指すべき方向性に盛り込むべきである。
		◆虐待やいじめも良い方向に向かっておらず、陰湿化、悪質化しているという状況も感じる。また、教員側が、説明はできないけれども守るべきものだという形で、校則を子どもに押しつけている事例も見受けられる。
		◆「子どもの意見表明や子どものアドボカシー」と言われているが、まずは子どもたちの大人への諦めの気持ちから、もう一度大人を信頼していいんだ、子どもが主人公ということを大人が本気で考えてくれているんだと思ってもらえるよう対応していく必要がある。

意見交換のテーマ	発言者	委員から示された意見
子ども・若者が笑顔で過ごせるために必要な取組みについて	鈴木委員 (パネリスト)	<p>◆子どもが自ら選択できる環境に置かれていない現状がある。子どもを大事に支え、子どものSOSを拾ってあげるよう、教員や保育者が多様性の尊重について学習する機会を増やす必要がある。</p> <p>◆子どもの個性を尊重し、子どもの個性を守るのは大人の責任であり、子どもが輝くよう大人側がしっかりと対応しないとイケない。</p> <p>◆大人が子どもに何かを押しつける、何かを学ばせるのではなく、子どもと大人は対等であるという考えに立ち戻らなければならないのではないのか。</p>
	森田委員 (パネリスト)	<p>◆子ども・若者が真ん中ということに対していろいろな異論が出てきており、子どもや若者に対する目線は、随分変わってきている気がする。</p> <p>◆子どもが若者になり、子どもを生み育て、人生を世田谷で送っていく。これまでは、そのためにどうしたらいいかという議論を組み立て、世田谷に対する愛というものをつくり上げてきたが、結婚や子育てを希望しない人がかなり増加してきており、世田谷の中での50年ということが、もう想定できなくなってきてしまっている。これを想定できないと愛は生まれてこないと思う。</p> <p>◆貧困と暴力、安心なき安全が、子どもたちの居心地の悪さをつくり出している。大人たちが作り出した経済的に効率のいい場所ではなく、子どもは、失敗だとか、危ないところとか、汚いとかといったところの中で、いろいろな価値形成を行っていくため、決してきれいなところが子どもたちにとって居心地のよいところではない。子どもたちにとってとても大事なことは、主体として保障する、主体的な生活を保障するということである。</p> <p>◆生きていく、暮らしていくことと働くことのバランスであったり、多様な関係性において自由とゆるみがあったり、こうしたある種のバランスが取れており、子ども・若者たちには、ここで生きていくということを選べるような、そういったメッセージが今必要なのではないのか。</p> <p>◆世田谷区で暮らし続ける要因の中には、住みやすさや地域の安全性、居住の問題などがある。若者たちが世田谷に住むためには、高くなっている家賃を下げなければどうしようもない。日本中がこぞって若者世代を誘致しようとするためにやっていることは、世田谷区でも緊急で考えなければいけない。</p> <p>◆多様な文化や価値を受け入れると同時に、不安や困った時の社会的な支援を行うことが非常に重要である。</p> <p>◆若者の起業についてもっと積極的に支援すべき。また、伴走し続けるという仕組みが世田谷区の中にないと、若者たちにとっては魅力が一過性のものになってしまうのではないのか。</p>

意見交換のテーマ	発言者	委員から示された意見
子ども・若者が笑顔で過ごせるために必要な取組みについて	テーマに関する意見交換	
	鈴木委員	◆子どもがいない世帯もいる中で、子ども中心が共通のテーマでないような時代に、未来の世代、今の子どもを守っていくという部分について、より力を入れて説明をすることが求められている。
	鈴木委員	◆子育て世帯が地域でいつでも自由に外へ出られたり、いろいろなところに出かけて行って子どもが邪魔にされないということを目指すことが、すごく大事なのではないか。
	森田委員	◆若者たちと一緒に考え一緒につくっていくというスタンスは、すごく重要だと思う。
	森田委員	◆区民として誰もがこの世田谷区の中で育っていくといった生涯学習の基盤をつくっていく必要がある。
	森田委員	◆親になる時期は社会との関係性が構築される時なので、地域とつながる体験となる手厚いサービスを市民と一緒につくっていくことが大切である。
	中村委員	◆今まで、保育あるいは福祉と医療の間、都が行っていた児童相談所と区の子育て支援との間、教育委員会とそれら三者の間に壁があり、全国でこうした壁を打破していくことが目指されている。こうした状況を意識して、基本計画や個別計画をつくっていく必要があるのではないか。
	尾中委員	◆基本計画策定にあたって、若い人たちを対象としたアンケートなどを行ってみてはどうか。
森田委員	◆挑戦的な教育・新しい学習は、PTAからも新しい教育課題や学習課題などが提示され、一緒に話し合いながら解決していける信頼関係を築いていく必要がある。親たちがどのように参加し、教師や保育士、あるいはいろいろな支援員たちとの信頼感をどう持てるかということにかかっている。	

意見交換のテーマ	発言者	委員から示された意見
<p>目指すべきコミュニティと安心して住み続けるために必要な支援について</p>	<p>江原委員 (パネリスト)</p>	<p>テーマに対するパネリストからの説明</p>
		<p>◆「多様性を持つ人々」について、実は多様性の多様化が進んでおり、非常に多様な観点から違いというものを持つ人たちが増えている。</p>
		<p>◆「多様性尊重は自分事」であり、人生100年時代というのは、誰もが変化し続ける時代である。だからこそ多様性を尊重するコミュニティを目指すことは、多様性を持つ人々のためであると同時に、誰にとっても住み続けられる社会を目指すことになる。</p>
		<p>◆多様性の人々が安心して住み続けられる支援とは、制度の落とし穴が少なく、特定のニーズに適合した具体的かつ的確な支援を行う必要がある。</p>
		<p>◆多様性を持つマイノリティの方々には、傷つけられることを恐れて、支援の場そのものを避けるという傾向があり、つながりやすい支援が必要がある。</p>
	<p>中村委員 (パネリスト)</p>	<p>◆支援する側とされる側が区別されている場所ではなく、誰でも参加できる居場所の形成と、参加者と支援者が分離し、いつもの確に支援をする特別なニーズを持つ人のための支援の2つの支援の場が地域には必要がある。</p>
		<p>◆人材が豊富であるという世田谷区の特性を生かして、住民の力を引き出し、参加を促すコミュニティを目指す必要がある。区民を施策の対象として捉えるのではなく、自ら地域をつくり支える存在として位置づけ、全ての人に「居場所と出番（役割）」があるまちづくりを心がけるべき。</p>
		<p>◆医療や介護や保育や教育などのベーシックなサービスをしっかりと維持することは、低所得の方々などに対して逆進性を緩和する機能を持っているため、意識して政策を進めるべき。</p>
		<p>◆活動と参加が地域でつながることを促し、住民が心身ともに健康である割合を高めることにも貢献する。住民主体で構成する生活中心モデル（活動と参加）を重視していくことが目指すべきコミュニティの姿ではないか。</p>
		<p>◆地域包括ケアシステムでは制度・政策は格段に整備されてきているが、課題はオペレーションである。従来は医療と福祉、介護の連携と言われていたが、今は地域づくりそのものが医療と福祉も関係するため、労働・教育・住宅・防犯・防災等々の分野との連携が必要である。地域の生活課題に取り組み、医療や福祉、介護だけではなく、まちづくりそのものとして取り組んでいく必要がある。</p>
<p>◆世田谷区のサービスの利用状況や提供状況を踏まえ、世田谷区にふさわしい包括的な支援体制の整備、特に地域移行・就労支援を重視し、区民も含めた関係者のネットワークで支えることが必要である。</p>		

意見交換のテーマ	発言者	委員から示された意見	
目指すべきコミュニティと安心して住み続けるために必要な支援について	中村委員 (パネリスト)	◆高齢者施策について、世田谷区は要介護の期間が長く、65歳以上の人に対する要介護認定率が高い状況にある。そのため、健康寿命を伸ばし、重度化させない介護予防と個々の高齢者に対する予防重視のケアマネジメントが必要になる。また、在宅や施設でのみとりが増え、医療と介護の連携が不可欠となっており、人々の「尊厳を支えるケア」を実現し、自立支援を支えていく必要がある。そのため、区内の専門家職能団体や事業者の果たすべき役割をもっと大きくしていかなければならない。	
	テーマに関する意見交換		
	中村委員	◆今まで児童行政は、保育所整備による待機児童の解消に力を注いできた。これからは本当に個々の子育ての悩みに寄り添い、即したサービスが展開できるようにしていく必要がある。そのため、地域の拠点なり、住民も含めた子ども・子育て支援を地域でやっていくということが必要なのではないかと。	
	江原委員	◆高齢者に対する介護の問題は、皆が高齢者になるというイメージで皆さんが合意できるかもしれないが、子どもや障害、医ケア児などのそのほかの問題については、意外と社会的合意が作りにくい。皆さんとの合意形成が進めば、若者に関する制度も少しずつ高齢者介護に関する制度のような施策展開を期待できるのではないかと。	
	中村委員	◆これからの成熟社会は、これまで数的に少なく、十分手を差し伸べてこられなかった部分にやっと着手できる状況が整ってきている。今度の基本計画では今までできなかった複合的な問題や複雑な問題にチャレンジしていく必要がある。公的制度だけで行うのではなく、住民と一緒にやっていく地域づくりをしていくことが、皆さんの理解にもつながるのではないかと。	
	江原委員	◆町会・自治会がもっている誰でも参加できるという支援の仕方は必要である。しかし、そこへ自分が入ってはいけないのではないかと感じるような人々が少しずつ増えてしまっている。そのため、外国人の方や障害のある人などと一緒に地域会など、少しずつインクルーシブな自治会イベントの在り方をつくっていくというのはよいと思う。	
	羽毛田委員	◆町会・自治会に積極的に関与していきたいと思っているが、加入の方法がわからない。町会・自治会側も、新しい人を巻き込んでいく知見やノウハウが蓄積されていないのではないかと。	
	中村委員	◆障害者支援については、ご両親が自分が亡くなった後も面倒を見てもらえる施設を頼りにすることもあって、家族の不安が地域移行を阻んでいるという要素がある。就労支援を促進し、障害年金と就労による工賃や賃金で、地域の住居で、グループホームやアパートの1室で、暮らし続けられるようにしていくことが求められている。きちんと医療とのつながりを持ちながら地域の中で暮らせるようにしていくことは、世田谷区にとっても大きなチャレンジしなければならない課題だと思ふ。	
	森田委員	◆財産や資産を持たない若い人たちは、場所がないため、活動が展開しない。一方で、地域の中で高齢者だけが暮らすというのは、いろいろな問題が発生する。そのため、空き家やシェアハウスなどの資源を共同の活動拠点とするなど、地域の中で解決していくような仕組みを世代を超えて議論しないといけないと思ふ。	

意見交換のテーマ	発言者	委員から示された意見
世田谷を安全で一層魅力的なまちにするために必要な政策について	長山委員 (パネリスト)	テーマに対するパネリストからの説明
		◆駒澤大学のラボでは、起業学習のコミュニティをつくっており、若い人、特に起業に全く関心のない人と、実際に起業している人が入り交じるような場である。これは、地域の起業文化の醸成であり、起業に無関心な人が関心を持ってもらう「創業機運醸成」につながるのではないかと。
		◆防災や子育てなどの地域の課題解決をテーマとし、テーマに共感をして集まって、つながって、共に学ぶといったことを通じて、参加からの学習、起業学習の場をつくっていくということが大事なのではないかと。
		◆商店街というものの自体が、もう経済活動の機能、買物の場というようなものだけではなくて、地域コミュニティの担い手という位置づけに変わっている。商店街は、地域の住民と起業家のコミュニティの場であり、アントレプレナーシップ、起業活動の苗床になるものと位置づけられている。商店街自体が社会的な価値の創出も併せて行う場として位置づけられるのではないかと。
		◆池尻の中学校の跡地を活用し、新たな産業・学び・コミュニティづくりの拠点を狙っている。（特定の社会課題に対し、多様な主体が強みを持ち寄って同時に働きかけることで課題解決や社会変革を目指すアプローチである）「コレクティブインパクト」の実現をコンセプトとしているが、この考え方は、この基本計画の中でも生かしてもいいのではないかと。
		◆町会の担い手不足や他のコミュニティ団体と担い手や取組みが重複しているといった課題がある中で、例えば、防犯、防災、子育てなどテーマごとに横串を立てたような連携体制をとる、プラットフォーム型の組織をつくっていくことが必要ではないかと。
		◆「ワクワク感の創出」ということで良いかもっと議論は必要で、地域の価値づくりといったものが最終的な内面化の局面となるものではないかと。資本主義の中で、生産様式でつくり出していくことができないようなもので、歴史とか自然や社会といった人々の知恵の結晶のようなものであって、「コモン」といったようなものが、根っ子の部分として大事にしていくべきものだろうし、それこそ真ん中にあるのではないかと。
		涌井委員 (パネリスト)
◆SDGsについて、ウェディングケーキという立体的な捉え方をしていけないとフラットに考えては具体的な方法はとれないと言われており、ぜひ立体的な考え方をしてほしい。環境は1つの要素ではなく、参加と協働も1つの要素ではなく、この図の後ろ側に、我々の持っている次の世代に対する一番重要な責任である持続的な未来を我々の世代でいかに担保していくのかという使命感みたいなものが、あらゆる人の一番重要な義務であり、持続的な未来なくしては将来の計画もないので、そのことを明確に示していくべき。		

意見交換のテーマ	発言者	委員から示された意見
世田谷を安全で一層魅力的なまちにするために必要な政策について	涌井委員 (パネリスト)	◆コンセプトは一体何かというと、地球から地域までが1つだということであり、個人が健康であるためには地域が健康でなければならないし、地域が健康であるためには地球環境全体が健康でなければいけない。ベーシックなものをしっかり明確にしながら、持続的な未来に世田谷区がどう貢献していくのか、その中で区民が一人一人が何をやっていくべきなのかを明確にしていくべき。
		◆グリーンインフラは入り口で、実は出口のほうが重要である。出口とはグリーンコミュニティである。町内会・自治会を縦軸のチェーン結合型のコミュニティだとすると、NPOなどの出会いや目的型の横軸の2軸でコミュニティが形成されていることが重要である。
		◆DXの傍らで、花や緑という全く反対側のシームレスな生命活動というものに何となく共感を持って、そこに参与しながら、自分の健康も維持し、地域の健康も維持していくような活動のきっかけとしては、まさに参加と協働そのものになるのではないか。
		◆世田谷が目指すべき都市像が見えてこないがどういう都市像を目指すのか。下北沢、二子玉川、三軒茶屋、烏山の4か所について焦点を絞って、明確なイメージを持つことが非常に重要ではないか。
		◆参加と協働の本質は一体何かというと、戦後、「公」が「共」を取り込み、「公共」となり、「共」が縮退してしまい、まさにcommonsの精神が失われてしまった結果として、町会・自治会の活動も収縮していってしまうという1つのきっかけになっていると思うが、これからの時代は、いかに新しい「共」の価値を再構築していくのかにかかっており、これとまちづくりというのは、切っても切れないものである。
		◆目指すべき都市像というものを掲げながら、その中で持続的な未来をどう担保していくのかという考え方でやっていくべきではないか。新たなインクルーシブなまちづくり、共同体というものをどうやって作り込んでいくのかということが非常に重要なテーマになると思っており、その辺りの都市像も基本計画の中では、明確に示していく必要があるのではないか。
	小林委員 (パネリスト)	◆地球の生態系などにきちんとお返しができるような、そういった暮らしの場をつくっていかないと、単なる区民ファーストになってしまうのかなと懸念している。
		◆福祉と予算制約の衝突とか福祉と防災の競合など、個々の縦割り計画が答えられない問題に基本計画は答えてほしい。
		◆区しかできない役割というのは、区民に義務を課すようなルールや、いざとなれば収用するような公共事業であり、こういった区しかできないものをどうやるのかということの基本計画に定めておくべき。
		◆区の政策の目的として、日本全体の自然の、あるいは地球の生態系の健全性の維持向上に、区なり区民の役割を果たすということは、はっきり書いてほしい。

意見交換のテーマ	発言者	委員から示された意見	
世田谷を安全で一層魅力的なまちにするために必要な政策について	小林委員 (パネリスト)	<p>◆天変地異に対する災害、そういう災害の人命の被害の最小化といったことは、やはり最優先だと思うので、そういったところの予算措置は最優遇するというような方針を書くべき。</p> <p>◆例えば再エネの活用や緑の導入、ごみ捨てやりサイクルなどについての個人の責任は条例で定めることができるのだから、こうしたローカルルールをしっかりと鍛え上げていくというようなことも書いてほしい。</p>	
	テーマに関する意見交換		
	涌井委員	◆ウォークブルなまちづくりというのは、全く知らない人がそこで出会って、擦れ違うことによって、ケミストリーな関係ができて、クリエイティビティが生まれる。世田谷はそういうクリエイティビティをどうやって起こすのかということがすごく大事で、そういうクリエイションが起きるような都市像をどうやってつくっていくのかということを示すことが重要である。	
	涌井委員	◆アントレプレナーの話は、まさに日本の経済はこれからものづくりではなくて、事づくりの方向へどうやって切り替わっていくかということだと思うが、ソフト化経済というのはライフスタイルの中に眠っているので、それをどうやって増すように成長させていくかがすごく大事である。	
	小林委員	◆予算を介した競合は常にあると思うが、トレードオンとトレードオフを見てどういう配分をするかということ議論することは、縦割りではできないので、基本計画の場で議論してほしい。そうした中で、やはり災害対策は、大都市は脆弱であり相当事前に手配しなければいけない。また、教育の中でも防災教育は重要で、教育の時間は限られるのでトレードオフがあり、予算以外にも時間的な配分でもあると思う。	
	涌井委員	◆烏山については、市街地農地、都市農地は重要で、それは、デジタルが進むほど振り子と同様リアルに戻す必要があり、高齢者も子どももリアルなものに触れるということが非常に重要である。一方で、アクセシビリティをどう改善するのかということも重要である。	